

重点事業1 野洲市ならではの体験型観光事業

※第2次野洲市観光振興指針 p27

資料：3-A

	内容	取組	実績	効果	評価
1	野洲市は農業・漁業等の一次産業の充実と共に、三上山や琵琶湖でのアウトドアや食、歴史・文化等、体験型観光につながる野洲市ならではの観光素材を有しています。人々の価値観がモノからコトに移りつつある今、そしてコロナ禍の今だからこそ注目を浴びている自然を生かした体験型観光を充実させます。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度からふるさと納税業務が移管され、商工観光課から地域経済振興課となった。 ・返礼品のラインナップをモノだけでなく、コト消費につながるような返礼品開発を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイアミ浜キャンプ場や関連施設、歴史民俗博物館等の返礼品化を行った。 ・3月にはマイアミ浜でふるさと納税イベントを行い、宿泊客から好評を得て、一定の反応があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイアミ浜キャンプ場のリピーターを中心に返礼品の活用が進み、定着が進んだ。 	B
2	野洲市の観光目的の過半数を占める「スポーツ・レクリエーション」分野との連携を通じた事業展開を検討します。	<ul style="list-style-type: none"> ・希望が丘文化公園やマイアミ浜において、スポーツだけでなく、憩いの場となるよう観光ガイドマップで案内した。 また、令和7年度に滋賀国スポ・障スポ大会が開催され、市内施設に多くの来場者を迎え入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・滋賀国スポ障スポ大会開催期間中において、選手、大会関係者、観覧者合わせて30,967人が来訪されました。 ・希望が丘文化公園で行われた、なでしこサッカー、クロカ、ラグビーの各大会や野洲市総合体育館で行われた大相撲野洲場所において、ドウタクくんを出动させ、野洲市のPR活動に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・野洲市総合体育館や平和堂HATOスタジアムにおいて、観光PRは行ったものの、改めて来訪されているとは実感が無い。 ・各種スポーツ大会に参加した選手、スタッフや応援者に野洲市のPRができたものの誘客への実感が無い。 	B
3	農業との連携によるグリーンツーリズムや三上山登山との連携によるスポーツツーリズム、ウェルネスツーリズム、琵琶湖岸でのアウトドア体験や家棟川の自然を楽しみながら環境の大切さを体感できる手こぎ船「家棟川エコ遊覧船」との連携事業等、野洲市ならではの体験型観光事業を展開します。	<ul style="list-style-type: none"> ・三上山登山フェスタを開催し、同時に「おいで野洲マルシェ」を実施することで、三上山登山とグルメを組み合わせた秋のイベントとして展開した。 ・琵琶湖岸におけるアウトドア体験の提供として、マイアミ浜やB&G海洋センター等においてSUP体験といったウォータースポーツが可能な環境を整備・展開している。 ・家棟川エコ遊覧船については、2024年度をもって事業を終了しており、現在は実施していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 【エコ遊覧実績】 ・実績は観物も把握なし 【登山フェス等の実績】 令和7年度：約250人 (うち、登山した人は150人) 【B&G艇庫実績】 令和4年度：1,864人 令和5年度：1,534人 令和6年度：1,612人 令和7年度：2,662人 【体験教室参加者数（SUP/カヌー）（マイアミ浜より）】 令和4年度：279人/5人 令和5年度：403人/0人 令和6年度：613人/6人 令和7年度：760人/20人 	<ul style="list-style-type: none"> ・周遊にはつながらなかったものの、一定数の参加者は確保できた。 	B
4	事業実施については、まずは市内の観光関連事業者や一次産業（農業・漁業・林業等）事業者との協議を行い、具体的な事業の計画と継続可能性（収益を得られるしくみにより無理なく継続できる方法）の確認をとりながら進めます。また、野洲市内の体験プログラムを集約し情報発信できるよう検討します。	<ul style="list-style-type: none"> ・JAや青年農業者クラブ、まるかじり協議会、すまいる市等との協議を行い、各種事業等の実施につなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> 【ひまわり迷路来場者数】 令和4年度 13,488人 令和5年度 8,188人 令和6年度 約8,000人 【おいで野洲まるかじり協議会主催・共催イベント参加人数】 令和4年度 約5,000人 令和5年度 約7,000人 令和6年度 約11,000人 ・ゆりかご水田のオーナー制度等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひまわり迷路の開催、ゆりかご水田での体験会等で市内外からの誘客ができた。 	B

A・・・取組や実績が十分であり、顕著な効果が得られた。 B・・・取組や実績があり、一定の効果はあった。 C・・・取組や実績が乏しく、効果が得られたかは不明。 D・・・取組や実績が全く無く、効果も無い。

重点事業2 野洲市のよいところ発見事業

※第2次野洲市観光振興指針 p28

資料：3-B

	内容	取組	実績	効果	評価
1	小学校・中学校での野洲市を学べる体験事業（観光関連）の充実を図ります。居住学区内だけでなく、学区外においても野洲市の良さを知ることが出来る機会を提供します。	<ul style="list-style-type: none"> ・銅鐸博物館において、歴史を楽しみながら学べる「弥生の森体験学習」を実施している。 ・花緑公園における「山の子事業」や、しがモックが実施する予約制の体験プログラムを通じて、団体利用者に対する木育体験の機会を提供している。 	<p>【弥生の森体験学習 参加人数（市内小学校参加者数）】</p> <p>令和4年度：136人 令和5年度：80人 令和6年度：77人 令和7年度：86人</p> <p>【花緑公園 山の子事業 実績】</p> <p>令和6年度：2,443人 令和7年度：2,366人</p> <p>【しがモック（学校団体の利用状況）】</p> <p>月に8～10団体 （内訳：保育園7割、養護学校2割 小学校1割（主に1・2年生））</p>	<p>・小学校・中学校に向けた体験学習の充実を図ることで、児童・生徒の学びを深めるとともに、地域の自然や文化への理解を促進できた。</p>	B
2	観光提供者からの情報発信と共に、観光客からの情報発信やSNSを利用したフォロー等、相互による情報発信力の強化につながるような仕組みづくりを検討します。（市内観光の最新情報の提供方法として「QRコード」の活用を含めて検討します。）	<ul style="list-style-type: none"> ・市内観光情報については、観光物産協会の公式Instagramで継続的に発信を行った。さらに、ドウタクくんの公式Instagramでは、コメントを促す投稿など、フォロワーが参加できる仕組みづくりに努めた。 ・市公式LINEを活用した情報発信により、イベント情報の周知拡大と参加者の増加につながった。 ・野洲市観光PRキャラクターであるドウタクくんは、これまで各種イベント等への出演を通じて、市の魅力発信に努めてきた。その活動は3代目ドウタクくんへと受け継がれ、現在も観光PRや地域活性化に向けた活動を展開している。 	<p>【観光物産協会Instagramフォロワー数】</p> <p>令和4年度：1,700人 令和5年度：1,990人 令和6年度：2,320人 令和7年度：2,912人</p> <p>【イルミネーション事業公式インスタ設立】</p> <p>0→193人</p> <p>【トップバナー設置】</p> <p>・市のホームページ上に、観光情報およびふるさと納税に直接アクセスできるトップバナーを設置した。</p> <p>【ドウタクくん貸出件数】</p> <p>令和4年度実績：21件 令和5年度実績：10件 令和6年度実績：11件 令和7年度実績：36件</p>	<p>各種SNSや市公式LINEを活用した情報発信により、観光情報やイベント情報の周知拡大につながった。また、ドウタクくんによる継続的なPR活動を通じて、市の魅力発信の強化と観光振興の推進が一定図られた。</p>	B
3	野洲市のよいところを発見できる第一の窓口として、観光案内所等の観光拠点の設置や観光物産販売所の充実を見据えた取り組みを行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・野洲市観光物産協会が北部合同庁舎へ移転し、観光情報発信業務を行った。 ・駅前整備の進展に伴い、構想の中で観光拠点としての機能を担う施設等の在り方について検討を進めた。 	—	<p>・事業やイベント等への展開、人員確保・体制に課題があり、十分な活動が行われているとは言えない。</p>	C
4	野洲市の貴重な財産である歴史・文化、行事等を動画で紹介・記録し様々な場面で活用します。	<ul style="list-style-type: none"> ・野洲市の観光PRのため、本館1階市民課前及び別館1階、図書館に設置したモニターで観光PR動画を放映するとともに、観光パンフレットを配架し、情報発信を行っている。 	<p>【野洲市観光PR動画 YouTube視聴回数（令和4年度作成）】</p> <p>令和4年度：591回 令和5年度：1,420回 令和6年度：2,142回 令和7年度：2,889回</p>	<p>・観光PR動画の放映やパンフレットの配架を通じて、野洲市の観光資源への関心の喚起や観光誘客への後押しにつながった。</p>	B
5	野洲市観光PRキャラクター「ドウタクくん」や野洲市観光大使との連携事業等により着目度を上げ、様々な媒体を通じ「野洲市のよいところ」の効果的な情報発信を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> ・ドウタクくんの認知度向上を目的として、各種イベントへ積極的に参加し、来場者に対してドウタクくんカードの配布を実施した。また、新たなオリジナルグッズとして「びわやすチャーム」を製作・販売した。さらに、公式Instagramを活用し、イベント情報や活動内容等の広報・情報発信に努めた。 	<p>【ドウタクくん貸出件数】</p> <p>令和4年度実績：21件 令和5年度実績：10件 令和6年度実績：11件 令和7年度実績：36件</p> <p>【ドウタクくん公式Instagram】</p> <p>フォロワー数：0名→230人</p> <p>【びわやすチャーム作成】</p> <p>計400個即完売</p>	<p>・ドウタクくんを地域に愛されるキャラクターとして定着させることで、地域の魅力発信や認知度向上につながった。</p>	B

A・・・取組や実績が十分であり、顕著な効果が得られた。 B・・・取組や実績があり、一定の効果はあった。 C・・・取組や実績が乏しく、効果が得られたかは不明。 D・・・取組や実績が全く無く、効果も無い。

重点事業3 湖と山をつなぐ観光周遊促進事業

※第2次野洲市観光振興指針 p 29

資料：3-C

	内容	取組	実績	効果	評価
1	<p>徒歩での視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三上山登山者等のニーズ把握をしたうえで、野洲市内の立ち寄りスポットを紹介し、またBIWA-TEKU(ピワテク)アプリの活用等で楽しみながら健康づくりを継続できるしつこみを検討します。 ・野洲市の歴史的資産であり、観光客からのニーズがある文化財や史跡、街道(中山道・朝鮮人街道)等について、野洲市ボランティア観光ガイド協会のこれまでの活動実績と共に連携・協力のもと、活用促進を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年1月より、事業に参加、本格運用開始され、当課はイベント時でのORコード設置、窓口に設置など情報発信に繋げた。 ・野洲市ボランティア観光ガイド協会による自主企画において野洲ハイキングを実施し、文化財や史跡、街道(中山道・朝鮮人街道)等の魅力発信を行った。 	<p>【BIWA-TEKUアプリ登録者数(野洲市のみ)】</p> <p>令和4年度：632人 令和5年度：794人 令和6年度：935人 令和7年度：1,068人</p> <p>【ボランティア観光ガイド協会によるおいで野洲ハイキング実績回数】</p> <p>令和4年度：5回 令和5年度：10回 令和6年度：11回 令和7年度：8回</p>	<p>健康づくり情報発信の強化により、市内外への健康づくり情報の周知促進につなげた。また、ガイド付きハイキングの実施により、文化財や史跡等の地域資源の魅力発信による誘客につなげた。</p>	B
2	<p>自転車サイクリストの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピワイチ「サイクルツーリズム」および「ヤスイチ」での野洲市内のおすすめ立ち寄りスポットの設定やレンタサイクル事業等の推進を検討します。 ・体調や気分に合わせて散歩程度にのんびりサイクリングするポタリングの推進によって、市民の健康増進にもつなげます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページでの周知は実施していたものの、体験ツアー等の具体的な事業化や誘客施策への展開に至っておらず、情報発信が実利用・観光消費に結び付いていない。 ・サイクリング、ツーリング、ドライブ、ウォーキングなど、ピワイチや琵琶湖が好きな人が集うピワイチミーティング2025in野洲をマイアミ浜で行った。 	<p>【サイクルマップ配布数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4,000部作成 <p>【ヤスイチサイクルフェス参加者数】</p> <p>令和5年度 15人 令和6年度 25人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年3月にヤスイチサイクルフェス2023を駅前広場(Aブロック)にて実施した。(参加者数：約3,500人)また、令和5年11月と令和6年3月にヤスイチサイクル体験ツアーを実施し、両日とも、サイクルマップに記載されているモデルコースを実走した。 ・野洲サイクリングマップを3つのイベントで配布し、自転車利用時ならではのおすすめ立ち寄りスポットの紹介や健康でエコなマイクロツーリズムの推進を図ることができた。 ・令和7年9月にはピワイチミーティング2025in野洲を実施した。(参加者数：約330人) 	<p>野洲サイクリングマップの配布は、幅広い年齢層に対し、目的や体力に合った自転車利用の促進が図れたが限定的であった。</p>	C
3	<p>市内連携・広域連携による周遊促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖岸の観光施設や滋賀県希望が丘文化公園、滋賀県立近江富士花緑公園等の市内施設との連携・協力、そして市外・県外施設との広域連携により、野洲市内での立ち寄りスポットの情報発信や野洲の観光物産販売等の協議を進めます。 ・立ち寄りスポットの設定については、各対象者のニーズに合った設定をすともにお店利用特典等により利用者増と経済効果が期待できる方法を検討します。 ・広域連携においては、近隣市町、滋賀県、公益社団法人びわこビジターズビューロー等との一層の協調・連携強化を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携においては、びわこビジターズビューロー主催のキャンペーン事業に湖南地域観光振興協議会として参加し、野洲の名産などを紹介し、野洲市をPRした。 ・湖南4市のスケールメリットを活かした事業を展開し、当地域への観光客の誘客促進と湖南4市を跨いだ周遊観光促進を図った。 	<p>【湖観振事業「謎解きラリー」の実績】</p> <p>令和6年度実績：特産品応募 2,531件 4市クリア達成者 570人 当選者 44人</p> <p>令和7年度実績：特産品応募 2,272件 4市クリア達成者 524人 当選者 44人</p>	<p>・広域連携によるキャンペーン事業や周遊型謎解きイベントの実施により、野洲市の認知度向上と湖南地域全体の観光誘客の促進につなげた。</p>	B

A・・・取組や実績が十分であり、顕著な効果が得られた。 B・・・取組や実績があり、一定の効果はあった。 C・・・取組や実績が乏しく、効果が得られたかは不明。 D・・・取組や実績が全く無く、効果も無い。